

モンタナ州立大学短期研修報告書

文学部 英語英米文学科
2年 2212017 篠崎未来

1. はじめに

私は、2月16日から3月19日までの約1か月間、アメリカのモンタナ州に位置するモンタナ州立大学ベリングス校（MSUB）のESLプログラムに参加しました。今回の参加者は、英語英米文学科4人、総合管理学部3人、環境共生学部の居住専攻3人の計10人が参加しました。



海外研修と聞くと英文の学生が多いのではないかと心配になる方も多いと思いますが、幅広い学部の学生が参加するため身構えなくても大丈夫です。むしろ他学部の学習内容や学部事情を知ることができて興味深かったというのが率直な感想です。研修中は、平日の午前中は授業、午後はアクティビティ、土日祝はホストファミリーと過ごすという生活を送っていました。

2. 参加の動機

私は小学生のころから英語が好きでいつか海外へ行ってみたいという願望をずっと持ち続けていました。また、洋楽も好きだったのでそれをきっかけに英語の発音やアメリカの文化に興味を持つようになりました。コロナ禍のため海外へ行くという機会をなかなか得られず、2年生にしてやっと海外へ行くチャンスができ、比較的忙しくない2年生のうちと思い参加を決めました。また、私にとって初の海外だったので長期ではなく短期のプログラムだったのも決め手の一つです。英語に特別自信があったわけでもなく不安はたくさんありましたが、思い立ったが吉日というように募集が始まってからすぐ手続きに取り掛かりました。家族も海外経験は大切だとこの参加に賛成してサポートをしてくれました。

3. キャンパスライフ

平日の9時から14時まで Writing, Reading, Speaking & Listening の授業があり、午後は学外でのアクティビティという流れでした。授業は実践系の活動が多く、英作文や英詩の読解をしたり、新しく経験したことを英語で共有したりする

ことが多かったです。先生方はネイティブなので話している内容が聞き取れなかったこともありましたが、聞き直したり質問したりすることで分かりやすく説明してくださるので、分からないことを分からないと伝えることの大切さを感じました。午後のアクティビティは、ビルングスの観光や食を堪能しました。モンタナ州の自然はとても豊かで、植物や動物、空の青さまですべてが日本とは異なり今思い出しても感動がよみがえるほどです。お昼ご飯は自分で準備をして友達と教室で食べていました。たまに学食や大学内のカフェで食べることもありましたが、学食は少し高いですが、メインを選んだ後は、サラダや飲み物、デザート、ハンバーガーなどが食べ放題なのでとても充実しています。メインは日替わりなのでアメリカの郷土料理だけでなく他国の料理も体験することができました。個人的にはどの料理もおいしかったです。



4. ホストファミリーとの過ごし方

私のホストファミリーは4人家族で13歳と9歳の女の子がいました。平日の夜は一緒にテレビを見たりカードゲームをしたりして過ごし、休日は買い物や観光、ホストファミリーの友達の家に行くなど、充実した生活を送ることができました。私は日本から習字道具と折り紙を持参していたので、ホストシスターたちに日本文化も教えました。人間関係に問題はありませんでした。単語を並べるだけのレベルでもいいのでもっと会話をして距離を縮めるべきだったと後悔があります。また、生活を共にする過程で様々な問題が出てきますが、英語で聞くのが難しいからと言って後回しにするのではなく、その都度解決していくことの重要性を感じました。大変なこともありましたが、異文化を肌で感じていく中で日本との違いが多く見えてきて毎日が新鮮でした。



5. 最後に

1か月と短い期間でしたが、このプログラムは私の長年の夢を叶え、これからの進路を考えるターニングポイントになりました。プログラムに参加するまでにお世話になった人、モンタナで出会った人はこれからの私に大なり小なり変化をもたらすでしょう。そして、現地で私たちのサポートをしてくださった森さんの「やらない後悔よりも、やる後悔」という言葉を胸に、この貴重な経験を原動力に英語学習を続け、成長していきたいです。

